

科目名	高次脳機能治療学実習			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23回	時間数	45時間 (1単位)	配当学年・時期	作業療法士科3年	前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 脳損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、しばしば日常生活に大きな影響を及ぼすことになる。損傷部位や観察および面接の結果をもとに症状を推測し、各障害像に合わせた神経心理学評価を選択、実施し、適切な対応方法を計画できるようにすることを目的とする。							
〔授業全体の内容の概要〕 高次脳機能障害評価学の基礎知識を基にして、各症状の発生経緯・ADL上の問題行動・評価・介入ストラテジーを関連付けて、講義および演習にて学習する。							
〔講師の実務経験〕 「2004年4月～2018年3月末まで急性期（集中治療室）から維持期（在宅支援）のリハビリテーションを提供する病院に所属する。 主な業務は身体障害および高次脳機能障害に対するリハビリテーションを実施していた。また対象分野に関する症例および学会発表							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 脳損傷患者の基礎情報（損傷部位・生活上で見られる症状など）から各障害像を推測し、適切な評価・介入方法を計画できることを目的とする。							
回数	講義内容						
1	高次脳機能障害の介入の基本（OTの視点を含めて）						
2	高次脳機能障害の評価の概要と評価計画の実際						
3	意識・注意機能障害と脳画像①						
4	意識・注意機能障害と脳画像②						
5	意識障害と認知機能障害について						
6	意識障害と認知機能障害および注意機能障害への介入						
7	半側空間無視および注意障害について						
8	半側空間無視の評価						
8	半側空間無視、視覚失認とその他の失認への介入						
10	記憶の障害について						
11	記憶の障害への介入						
12	言語の障害について						
13	言語の障害への介入						
14	感情障害について						
15	失行、行為・行動（社会的行動障害と感情障害）の障害について						
16	失行、行為・行動（社会的行動障害と感情障害）の障害への介入						
17	遂行機能障害について						
18	前頭葉機能障害・遂行機能障害への介入と脳画像の読影						
19	社会的行動障害とその介入（治療計画立案を含めて）						
20	症例を用いた評価計画の立案						
21	症例を用いた評価と治療計画の立案						
22	症例に合わせた治療プログラムの実践						
23	まとめ						
	定期筆記試験						

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト高次脳機能障害学作業療法学 改定第2版		メジカルビュー
CD-ROMでレッスン脳画像の読み方 第2版		医歯薬出版

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

小テスト・定期試験の結果を合わせてテスト点数の評価を行う。レポート課題提出を合わせて評価を行う。
--